

# 教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No.7

第 7 号 2011年 9月 12日発行

## 目 次

- ・教育開発部門の活動（第59回中国・四国地区大学教育研究会及び大学教育研究センター等協議会参加報告） 1
- ・外国語部門の活動（『学力差に応じたTOEIC強化クラスの設定とその効果検証(第2部)』の始動/他) ---- 2
- ・健康スポーツ部門の活動（体育施設の維持・管理活動/附属学校園における教育支援活動/他) ----- 3
- ・教職教育部門の活動（教職ポートフォリオの開発/「教職実践演習」の授業開発に向けたプロジェクト/他) 3
- ・関係教員名簿

## 教育開発部門の活動

### ●第59回中国・四国地区大学教育研究会への参加（5月28～29日鳴門教育大学）

他大学の教育の取組みについて、田畑教授、桐山准教授が情報収集を行いました。

研究会第1日目、午前中のシンポジウムでは、2件の講演が行われました。文科省の教員免許企画室長の新田正樹氏が「教員養成の現状・課題と改革の動向について」と題して、教員免許更新制・更新講習など、教員の質向上をめぐる最近の動きを報告し、奈良教育大学理事・鷺山恭彦氏が「教員養成における教養教育を考える」と題して、「教養」についての見方を提示しました。

午後の「テーマ別セッション」、第2部会「FDのマネジメント（企画・実施方法）の実際」では、まず愛媛大学の米澤慎二氏が職員の立場から「教職員能力開発拠点における教職協働」と題して、スタッフ・ポートフォリオの開発や、SPODの企画を通しての教員と職員の「協働」の実例を報告しました。次に、鳴門教育大学の幾田伸司氏が「公開授業をふまえた三位一体型ワークショップの展開」と題して、「公開授業週間」の設定による全授業公開、研究会を伴う「特別公開授業」とワークショップ開催という3つの事業を中心とした取り組みの経過を紹介しました。これは「授業公開」を行う点で参考になりうる視点と実施方法であると思われます。

第2日目午前の分科会では、「地域との関わ

りを重視した教育実践のあり方と課題について」というテーマで行われた「人文・社会科学分科会」にて、2件の実践報告がありました。吉備国際大学の田中卓也氏は「学生の自主性を重視した子どもを対象とした地域ボランティア活動の実態報告」と題して、福祉学科の学生たちが高梁市内でのイベントにボランティアとして参加して成長した実態記録を報告しました。また鳴門教育大学の大石雅章氏は「遍路文化を活かした地域人間力育成の取り組み」と題して、現代GPに採択された大規模な取り組みを紹介しました。後者の取り組みは、地域の文化遺産を現代の大学教育、特に「人間力」の育成に活用・実践したものであり、類似の取り組みを考えると、モデルになりうると思われます。

### ●平成23年度大学教育研究センター等協議会への参加（8月2日一橋大学・西キャンパス）

開催校である一橋大学学長・山内進氏と、事務局長山本眞一・および昨年度協議会会長木島明博、本年度会長筒井泉雄の各氏の挨拶の後、5つの大学代表者が、5つのセンター・タイプ（または業務テーマ）に即した報告を行いました。

まず、「共通教育運営型」の代表事例として、香川大学の武重雅文氏が「教養部構想」と題して、「香川大学大学教育開発センター」の来歴・組織そして進行中の学部構想について報告しま

した。続いて、「学部を含む全学包括運営型」として、金沢大学・西山宣昭氏がカリキュラムマップ作成を通してのラーニング・アウトカム確保＝「質保証」の取り組みについて報告しました。3番目に、「学習・教授法支援（FD）型」の代表として、北海道大学・斉藤準氏が「アカデミック・サポートによる学習支援」と題して、「総合入試」（H23年度より実施）に関連した「特定専門職員」及び院生による進路支援・学習支援の北大での取り組みを紹介しました。4番目に、「学生支援型」の代表として、東北大学の羽田貴史氏が「学生支援としての保健管理センター」と題して報告しました。最後に、「高等教育研究拠点、IR（評価・分析）型」として、東京大学の小林雅之氏が「学生調査・大学評価・国際ランキングの動向研究」と題して、東大・大学総合教育研究センターのInstitutional Research(IR)活動の実際について報告しました。

分科会では、上記5つのタイプ（テーマ）の分科会に別れて協議しました。第3分科会「学習・教授法支援（FD）」では、北海道大学の「学習サポート」の組織的取り組みについて質問や意見が集中しました。その後、各大学での活動の報告がなされました。鳥取大学では、教授法支援に比べて学習支援の取り組みが他大学に比べてやや手薄です。ただ、FD合宿研修が3年目になることを報告すると、他大学出席者から、意外にも、驚きの声が上がりました。他大学で現在合宿研修を実施しているところは、一部の先進（？）大学を除くと、案外少ないのかもしれない。

（部門長：田畑博敏）

### 外国語部門の活動

#### ●新入生に対する第1回TOEIC試験の実施（5月21日）

新入生全員を対象に第1回のTOEIC試験が実施されました。この目的は、学生達が入学当初にTOEIC試験を実際に体験することによってその形式・内容に慣れ、12月の本番に向けて効果的な英語学習が行えるようにすることです。ただ、後日返還されてきた結果をみると、全体では平均点：371点、300点クリア率：76%とな

り、昨年の成績（平均点：391点、300点クリア率：82%）と比較すると、いずれも下回る結果となりました。12月受験に備えて、今後、学生・担当教員双方により一層の努力が求められています。

#### ●平成23年度学長経費プロジェクト『学力差に応じたTOEIC強化クラスの設定とその効果検証（第2部）』の始動

昨年度、総合英語上位クラスにおいてTOEIC強化プロジェクトが一定の成果を収めました。この結果を受けて、今年度は担当者を2名から4名（地域1、農1、工2の合計4クラス）に増やして、これらの4クラスの受講生全員が600点突破を目指すことになりました。これらの4クラスでは、学長経費を利用して購入した補助教材を全員に貸与し、授業および自主学習を通して特別なTOEIC対策を行うことになっています。学生達がこの強化プロジェクトの趣旨を十分に理解して意欲的に学習に取り組むことが期待されています。

#### ●第59回中国・四国地区大学教育研究会への参加（5月28～29日鳴門教育大学）

外国語分科会に筏津教授、武田教授が参加しました。テーマは「グローバル化社会および大学全入時代における大学の英語教育を考える」と「第二外国語教育を取り巻く環境と問題」で、参加者の間で活発な議論が交わされました。中でも、「英語」分科会の愛媛大学からの報告（「英語プロフェッショナル養成コース」創設と取り組み：副専攻型英語教育プログラムの実践報告）は、より高いレベルを目指す学生への新たな試みとして参加者から高い関心を集めていました。

#### ●学部別懇談会における昨年度の学長経費プロジェクト実施結果の報告（工学部：6月10日、地域学部：6月16日、農学部：6月23日）

学部別懇談会において、各学部の学生のTOEIC受験結果をそれぞれ報告し、今後の方向性等について意見交換を行いました。

### ●アルク社主催「グローバル人材育成最前線セミナー」への参加（6月14日）

東京で行われたアルク社主催のセミナー（「グローバル化を加速する一組織で挑む英語力強化の取組み」）に筏津教授が参加し、『国内語学研修：成果を上げる戦略的仕掛けと研修事例』について、①JT（日本たばこ産業株式会社）、②アステラス（山之内製薬と藤沢薬品の合併会社）総合教育研究所株式会社からの報告を聞きました。企業でTOEIC受験が義務付けられつつある現実を垣間見ることができ大学の英語教育にとっても貴重な情報を得ることができました。

### ●コミュニケーション英語AにおけるiPad使用のデモンストレーションの実施（第1回：6月21日、第2回：6月24日）

英語のネイティブ教員の間でiPadを利用してコミュニケーション英語Aの授業効果を高めようという試みが始まっていますが、データを共有してさらに利用効果を高めるため、iPad使用のデモンストレーションが開かれました。日本人教員の間でもiPadへの関心は高く、多くの英語担当者が参加して熱心な質疑応答が行われました。

### ●ダンディー大学のピーター・キトソン教授の招聘講演会を開催（7月1日）

和田准教授を中心に申請した学長経費プロジェクト（「国際交流の推進」）が採択され、7月1日から3日間、スコットランド・ダンディー大学のピーター・キトソン教授を鳥取大学に招聘して講演会を開催しました。学術的にレベルの高い講演とともに教授を囲んでの懇話会も大いに盛り上がり、参加者一同にとって有意義な一夜となりました。

（部門長：筏津成一）

## 健康スポーツ部門の活動

### ●教務関連活動

健康スポーツ科学実技の種目選択に関して、学生の受講希望種目の傾向を把握するため1年生及び2年生以上の学生という2群を調査対象に設定し、調査を実施しました。

### ●体育施設の維持・管理活動

ゴルフ練習場が電気系統の故障、ネット破損のため使用不可能な状態でありましたが、7月上旬に旧設備を撤去し、簡易型のネットを設置することにより使用可能となりました。

### ●課外活動支援活動

5月26日に平成23年度の第1回トレーニングルーム使用説明会を開催しました。

### ●附属学校園における教育支援活動

（1）キッズスポーツ・アンド・スタディサポート

5月11日より全8回の予定で実施してきました夏期コースが、予定通り7月上旬に終了しました。今回も全身運動になるようにという配慮から、サッカーとドッジボールを織り交ぜて主な活動内容としました。なお、秋期コースは10月19日より実施予定です。



（2）陸上教室

5月上旬より実施してきました陸上教室は、短距離走、走り幅跳びの学習が中心でしたが、残り3回となった9月の教室では、投運動としてソフトボール投げを取り上げ学習しています。

（部門長：福元和行）

## 教職教育部門の活動

### ●「教職ポートフォリオ」の開発

5月12日、17日（および追加にて24日）に、教員免許取得希望2年次生対象に教職ポートフォリオ説明会を開催しました。参加学生数は、3回合わせて地域学部81名、工学部33名、農学部22名、計136名でした。また、第1回教職教育連絡会（6月29日開催）において、教職関連科目について各学部（地・農・工）における教職ポ

トフォリオ運用説明および協力を各委員（教務担当副学部長等）に依頼し了承されました。

### ●「教職実践演習」の授業開発に向けた学長経費プロジェクト

6月3日に第1回ワーキング、7月13日に第2回ワーキングを開催しました。メンバーには、教職教育部門教員に加えて、地域学部から山根俊喜教授、小笠原拓准教授にご参加頂いています。今年度は、教員免許取得希望者の教職関連科目履修状況を中心に調査を行い、4年次後期教職必修となった「教職実践演習」の授業開発のための検討を進める予定です。

### ●教育臨床相談

小林（勝）准教授が以下の活動を行いました。

- ・個別療育（火・水曜日16:00～）：発達障害のある小学生3名。臨床発達心理士資格修得のための担当学生スーパーバイズも兼ねます。
- ・外来相談15件（拒食症、教師への不満、不登校、抑うつ、性格的問題、育児相談、発達障害、進路、親子関係など）
- ・震災に伴う心のケア活動～心理士ネットワークを通じた被災者からのメール相談。
- ・週2回ペースで、事例検討会への参加、啓発活動等：附属幼稚園発達相談、附属中学生徒支援委員会、附属中学校教育懇談会2年研修会講師、

八頭町保健師・5歳児健診後担当保育士へのコンサルテーション、美和小学校人権教育研修会講師、津ノ井小学校教職員研修、発達障害のある生徒支援事業拠点校研究推進委員会委員長、鳥取県人権尊重社会を実現する鳥取研究集会、鳥取県臨床心理研究会総会記念講演など

・8月20～21日、本学で日本発達障害学会第46回研究大会が開催されました。

### ●教職相談

小椋特任教員を中心に、教員志望者に対する就職活動支援として集団面接（20人の学生を3グループに分けて指導）と自己アピール文・小論文の指導、ならびに、適性検査やその他の相談を行いました。また、教育実習視察・指導（附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校、県内高等学校）、高校への受け入れ要請を行いました。

### ●地域貢献

大谷准教授を中心に、6月24日に教育ボランティア説明会を行いました。また、7月16～30日には、らくがきハウス協力「夢の森を描こう」（氷ノ山自然ふれあい館響の森）が開催されました。

（部門長：塩野谷斉）

---

### 教育センター関係教員（○は部門長、\*は兼務教員）

センター長：本名俊正

教育開発部門：○田畑博敏、吉野 公\*、橋本隆司、後藤和雄、井上順子、永松利文、桐山 聡、武田元有

外国語部門：○筏津成一、福安勝則、武田修志、サージャント・トレバー、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、  
シャーリー・リーン

健康スポーツ部門：○福元和行、上野耕平

教職教育部門：○塩野谷斉\*、小林勝年、柿内真紀、大谷直史

※ 外国語部門、健康スポーツ部門、学生生活支援部門、附属学校連携部門の兼務教員は割愛しています。

---



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電話：0857-31-6775（内線2429）

E-mail：[k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp)